

石川工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	英語講読 I I
科目基礎情報						
科目番号	15660		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電子情報工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	桐原書店編集部編著「AXEL Course d」（桐原書店）					
担当教員	紺谷 雅樹					
到達目標						
1. 基本的な英文の内容を理解し、関連した質問に答えることができる。 2. 基本的な英語の語彙が理解できる。 3. 基本的な英文法や構文が理解できる。 4. 英文の内容を日本語で説明することができる。 5. 長文の要旨をつかみ、内容をまとめた英文と対応させることができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標項目2	基本的な語彙を理解し、運用できる。		基本的な語彙を概ね理解し、運用できる。		基本的な語彙の理解および運用ができない。	
到達目標項目3	基本的な文法を理解し、運用できる。		基本的な文法を概ね理解し、運用できる。		基本的な文法の理解および運用ができない。	
到達目標項目1, 4, 5	基本的な内容を聞いて詳細まで理解できる。		基本的な内容を聞いて概ね理解できる。		基本的内容を聞いて理解できない。	
到達目標項目1, 4, 5	基本的な文章を読んで詳細まで内容が理解できる。		基本的な文章を読んで内容が概ね理解できる。		基本的な文章を読んで内容が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
本科学習目標 1 本科学習目標 3 創造工学プログラム C1						
教育方法等						
概要	英語の読解力、リスニング力、語彙力をはじめとする基礎的なコミュニケーション能力を、TOEICへの対応も考慮した学習教材を活用して養う。同時に会話や文書などの意図や要点をつかむ力を高める。また英語運用活動を通して、文化や歴史、環境など多様なテーマにふれることで、自分たちが生きている社会に対する理解を深める。これらの活動を行うことで、幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる力を備えた技術者を育成する。					
授業の進め方・方法	随時、講義内容の予習・復習のための課題を与える。 実力養成のため、自学自習教材としてアルクNetAcademy NEXT「TOEICテスト対策コース」に取り組むこと。1月に受験するTOEIC公開テスト対策としても有効に活用すること。					
注意点	予習・復習をしっかりと行うこと。 授業には紙の辞書または電子辞書を持参すること。 【評価方法・評価基準】中間試験、期末試験を実施する。成績の評価基準として60点以上を合格とする。 前期：中間試験（40%）、前期末試験（40%）、課題（20%） 後期：中間試験（40%）、学年末試験（40%）、課題（20%） 学年末：前期成績（50%）、後期成績（50%）					
テスト						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Lesson 01 新しい車いす表示		時制、完了形、時・条件の副詞節を理解・運用できる。	
		2週	Lesson 01 新しい車いす表示		時制、完了形、時・条件の副詞節を理解・運用できる。	
		3週	Lesson 02 コウモリの生態		助動詞を用いた表現、完了形の受動態、進行形の受動態、群動詞の受動態を理解・運用できる。	
		4週	Lesson 02 コウモリの生態		助動詞を用いた表現、完了形の受動態、進行形の受動態、群動詞の受動態を理解・運用できる。	
		5週	Lesson 03 チョコレートの歴史		動名詞の表現、分詞の後置修飾、分詞構文を理解・運用できる。	
		6週	Lesson 03 チョコレートの歴史		動名詞の表現、分詞の後置修飾、分詞構文を理解・運用できる。	
		7週	Lesson 04 老婦人と娘		自動詞＋to do、be 動詞＋to do、不定詞を用いた表現を理解・運用できる。	
		8週	Lesson 04 老婦人と娘		自動詞＋to do、be 動詞＋to do、不定詞を用いた表現を理解・運用できる。	
	2ndQ	9週	Lesson 05 ペットとしての猫の歴史		数値、less、more、other を使った比較表現を理解・運用できる。	
		10週	Lesson 05 ペットとしての猫の歴史		数値、less、more、other を使った比較表現を理解・運用できる。	
		11週	Lesson 06 ハロウィーン		関係代名詞、複合関係詞、関係代名詞の継続用法を理解・運用できる。	
		12週	Lesson 06 ハロウィーン		関係代名詞、複合関係詞、関係代名詞の継続用法を理解・運用できる。	
		13週	Lesson 07 発展途上国の女子教育		関係副詞、複合関係詞を理解・運用できる。	
		14週	Lesson 07 発展途上国の女子教育		関係副詞、複合関係詞を理解・運用できる。	
		15週	前期復習			
		16週				

後期	3rdQ	1週	Lesson 08 海底の魅力	if が出てこない仮定法、仮定法を使った慣用表現を理解・運用できる。
		2週	Lesson 08 海底の魅力	if が出てこない仮定法、仮定法を使った慣用表現を理解・運用できる。
		3週	Lesson 09 落書き防止のアイディア	時制の一致、直接話法と間接話法、平叙文以外の話法の転換を理解・運用できる。
		4週	Lesson 09 落書き防止のアイディア	時制の一致、直接話法と間接話法、平叙文以外の話法の転換を理解・運用できる。
		5週	Lesson 10 ノートテイキング	much と many、little と few、ago と before の違いを理解・運用できる。
		6週	Lesson 10 ノートテイキング	much と many、little と few、ago と before の違いを理解・運用できる。
		7週	Lesson 11 クローン羊のドリー	不定詞と動名詞、S+V+O+do、自動詞と他動詞の違いを理解・運用できる。
		8週	Lesson 11 クローン羊のドリー	不定詞と動名詞、S+V+O+do、自動詞と他動詞の違いを理解・運用できる。
	4thQ	9週	Lesson 12 十分な睡眠の必要性	部分否定、二重否定、否定の慣用表現、否定語を使わない否定表現を理解・運用できる。
		10週	Lesson 12 十分な睡眠の必要性	部分否定、二重否定、否定の慣用表現、否定語を使わない否定表現を理解・運用できる。
		11週	Lesson 13 ボランティア活動から学んだこと	名詞構文、無生物主語、強調・倒置・挿入・省略を理解・運用できる。
		12週	Lesson 13 ボランティア活動から学んだこと	名詞構文、無生物主語、強調・倒置・挿入・省略を理解・運用できる。
		13週	Lesson 14 マクドナルドのビジネス展開	指示代名詞、不定代名詞、所有代名詞、再帰代名詞を理解・運用できる。
		14週	Lesson 14 マクドナルドのビジネス展開	指示代名詞、不定代名詞、所有代名詞、再帰代名詞を理解・運用できる。
		15週	後期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	4	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	4	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	4	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	

評価割合

	試験	課題	小テスト	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---